

② ケータイ・スマホにまつわる「身近な人」との関わりについて

👉 コミュニケーションとして適切な表現・方法を考えた使い方をさせましょう

- 短い文字や絵だけのやりとりでは、声や表情を通して言葉の裏にある感情などが伝わりにくく、違う意味で受け取られたりすることがよくある事を教えるとともに、通信のスピードに振り回されず、一歩立ち止まって、相手への伝わり方などを考えてから行動できるような使い方をさせましょう。また、大事な事は会って伝える、電話で話すなど、一般社会における適切なコミュニケーションの方法についても教えましょう。

👉 一緒にいる人や周囲の人が気持ちよく過ごせる使い方をさせましょう

- 一緒にいて会話や食事をしている時にケータイ・スマホの画面をずっと見ていたりメッセージのやりとりをしたりすることは、一緒にいる人にとって気分がよくない事であることを教えたり、公共交通機関の車内や道を歩さながらの使用、邪魔な場所で立ち上りでの使用など、周囲の迷惑になる事を考えさせたりしながら、社会でのマナーを教えましょう。

👉 家族に心配や迷惑をかけない使い方を具体的に確認しましょう

- 使いすぎて勉強時間が減り成績が下がったり、睡眠不足で体調に影響が出たり、友達とのトラブルで精神的に苦しんだりしている姿を見ると親はとても心配すること、また、お金がかかることを無断でしたり、社会で犯罪となるような行為に巻き込まれたりするととても困ること等を子供にしっかりと伝え、ケータイ・スマホを使用する際の約束事として具体的に確認しましょう。

③ ケータイ・スマホにまつわる「社会」との関わりについて

👉 犯罪になることは何かを教え、子供を守りましょう

- より詳しく、個人情報や他人の悪口を書き込んで広めること（名誉棄損）、ふさわしくない画像（児童ポルノ禁止違反）や芸能人の動画を無断でアップすること（肖像権侵害）、音楽や画像を違法にダウンロードすること（著作権侵害）など、子供が自覚なく使用している環境がすでに犯罪と言える状態になっている場面があるかもしれません。子供に利用させる責任として、まず、親が犯罪に当たる行為をよく知り、子供をそれらの危険から守りましょう。

👉 自分の書込みに責任を持てるよう指導しましょう

- 軽い気持ちで書いたことでも、ネット上では世界中に広がる可能性があります。また、匿名性を盾に、面と向かっては言えないことを書き込んだり、他人のプロフに無責任なコメントを投稿したりする姿は大人の中にも見られます。自分の子供をそのような恥ずかしい大人に育てないためにも、ケータイ・スマホでの関わりに限らず、自分の発言や行動に責任を持てるよう指導しましょう。



文中の「ケータイ・スマホ」は、携帯電話・スマートフォンのほか、ゲーム端末やタブレットなどのインターネット通信やSNSなどを含めています。